## お米にする

もみすりには、軟式野球ボールの 硬さがちょうどいいよ!



①脱こく (穂からもみをとる)



茶わんや牛乳パックの中 に穂を入れて引っぱると、も みが容器の中に残ります。

②もみすり (玄米にする)



すりばちにもみを1握り入れ、 軟式野球ボールでゆっくり上の 方まですり上げます。息をふき かけて、もみがらを飛ばします。

③精米 (白米にする)



びんまい 玄米をビンに入れて 棒でつき、出てきた粉 (ぬか) はふるいなどで 落とします。

### 上手につくるポイント

台風対策

台風などの強風 の時はバケツ稲を 室内に移動させま しょう。

スズメ対策

稲の周りに園芸 用の支柱をたて、 網などをはります。

はん点などが出た病気の葉や、害虫は その場で取りのぞき、病気の稲は他の稲 と離して育てます。バケツの水にボウフラ が発生した時は、水と一緒に流し出して 新しい水に入れ替えます。

### 寒さ対策

苗の移しかえ時、穂の赤 ちゃんが出来る時、花が咲 く時で、20度以下になりそ うな時は、室内に入れてあ げよう。



## わからないことがあったら相談室に質問してね!

バケツ稲づくり相談室 **203-6281-5822** 

バケツ稲

10:00 ▶ 17:00 (土・日・祝・年末年始はのぞく)

個人情報の取り扱いについて:いただいた個人情報は、「バケツ稲づくり」事業の資料等の送付や食育関連チラシの配布等、バケツ稲づくりに関する事業のみに使います。

【参考文献】 『お米が実った』 (JA全中) 『ジュニアファクトブック 食料・農業・JA 改訂版』 (JA全中) シリーズ 『写真でわかるぼくらのイネつくり』 農文協編 (農文協) シリーズ 『米で総合学習 みんなで調べて育てて食べよう!』 横田不二子著 (金の星社) 「農学基礎セミナー 作物栽培の基礎」栗原浩也著(農文協)

【編集·制作】株式会社日本農業新聞

バケツ稲づくり事業

事務局:北海道米販売拡大委員会

(株) 日本農業新聞 / (一社) 家の光協会 / (一社) 全国農協観光協会 / (公社) 米穀安定供給確保支援機構

推薦:全国小学校理科研究協議会/全国小学校社会科研究協議会/全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会/ 日本理科教育協会/日本理化学協会/日本生物教育会

JA全中·JA北海道中央会 北海道米販売拡大委員会





マニュアル、観察ノート、 指導書は、ホームペー ジから印刷できるよ

4月

# H"/#07 北海道版

観察しながら稲を育ててみよう!

力





6月

8月

お米ができる

9月 10月

### じゅん び 5月上旬)

5月

土は、「黒土 6、赤玉土(中粒)3、鹿沼土 (小粒) 1」の割合で用意し、ビニールシー トなどに広げてかわかして、肥料と混ぜ て使います。

セットの肥料は、チッソ、リン酸、カリの 3要素を含む化成肥料で、収穫まで肥料 を追加しなくても育ちます。

使用する土の注意点:黒土のかわりに田ん ぼの土や、田んぼの土として市販されている 荒木田土を使う場合は、他の土を混ぜる必 要はありません。培養土を使う場合は、肥料 は入れないでください。また、水をためて育 てる過程で腐敗したり、土が膨れて水が入ら ない場合がありますので注意が必要です。





7月

▶肥料は、1つのバケツあたり 1袋入れます。







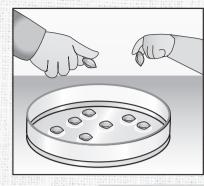
## 芽出し(4月下旬~5月上旬)

白い芽 (鞘葉) が 1 mmくらい 見えたら種まきできるよ!



シャーレなどの浅い容器 に種もみがひたるくらいの 水を入れます。水にひたした 種もみは、室内のあたたか い場所におきましょう。

種もみに酸素がじゅうぶ んに行きわたるよう、水は毎 日とりかえます。





種もみをまいた日をメモしてね ※種もみをスズメに食べられないように、葉か5cmくらいのびるまでざるをかぶせます。



種まき(5月上旬)

水とよく混ぜて泥になった 十をいれたバケツに、表面 に水がたまらないくらいの水 を入れます。少し離して種も みをまき、深さ6~7mm (種 もみふたつ分) ほど指で押し

込み、土をかぶせ ます。土がかわい たら、土の表面が 湿るくらいに水を まきます。







↑ 土を作る時にセットの肥料を1つのバケツあたり1袋入れます。

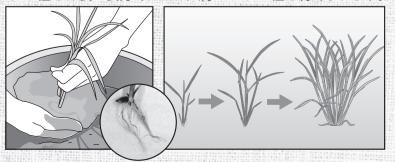
成長すると背が高くなり倒れやすいので 支柱を用意しましょう。

(5月中旬~下旬)

葉が3~4枚にふえたら根ごとやさしく苗をぬき、茎が太く育ちのよい苗を3~5本に まとめ、バケツの中心に、2~3cmの深さに植えます。そこに水を1cmの深さに張って、 根付いたら5cmの深さに水を張ります。

苗を移しかえた後から茎が増えていきます。このような稲の徒分かれを「分げつ」といい ます。別に土と肥料を用意すれば種もみ袋1袋分で4~5人分のバケツ種を育てられます。





## 中ほし(6月)

中ぼしをすると、十は酸素を取り込み、根は水を 求めてのびるので、じょうぶな稲が育つよ!



稲の茎数が 20 本、草丈が  $40 \sim 50$ cm 程度になったら、 2~5日くらい水をぬきます。十の表面がかわいたらバケ ツに水を5cmくらい入れ、なくなったら足します。



### 中ぼしの注意点

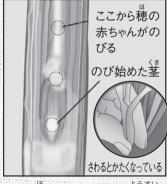
- ・中ぼしの回数は1回です。
- ・雨が入らず風通しの良い屋 外に移してください。

※狭い容器のバケツ稲での中ぼしは、乾かし 伏になったり、色が黄色くなってくると水分不 足です。すぐに水を入れて中ぼしを終ってしてく ださい。気温によっては1日で枯れる場合があ りますので、よく観察しながら行いましょう。

## お米になる

穂が出たらスズメに 食べられないように網をはろう!





①穂の赤ちゃん(幼穂) ができると、茎がふくらみ、 約20日で穂がでます。

②つぼみがわれて花がさき ます。おしべの花粉がめしべにが固まって重くなり、穂が つき、受精します。



③もみの中のでんぷん たれてきます。



▼ 茎がふくらみ始めてから穂が出るまでは 5cmの水を保ちます。

## 稲かり(9月中旬~下旬)

稲をほす時も、 スズメに気をつけて



稲かりの目安は、穂が出てから 40~45 日ごろ、穂の約 90%が黄金色になったころです。 その10日くらい前に水をぬき(落水)、かわかしてから稲をかります。かりとったら穂を下 にして根元をしばり、風通しがよい場所で10日ほどほします。

①落水する



②稲をかる



③稲をほす

